

## 第19回 わたし達の掛軸展

2023(令和5)年4月13日～17日

単位=尺

No.	名前	作品名	形式名	作者コメント	丈	巾
1	安達 美津子	霧の森	丸表装	森に霧が立ち込める様子を想像して水墨画で描きました。 以前作った作品ですが、本紙も裏返っておらず、よくできたと思います。	350	155
2	小出 晶子	あしびきの	創作表装	会員の中村さんのお嬢さんの作品をいただきました。 無地と柄の木綿地を割り貫き、山鳥の尾と夜のイメージで仕立てました。	328	177
3	影山 加代子	初・はつ・づくし	創作表装	片岡鶴太郎氏のハンカチを本紙として、創作掛軸を作りました。最初は、全体に青色の絨裂(しけきれ)を使って作りましたが、本紙のかつおが新鮮に見えず、中廻しのみにして、天、地に着物裂(青白縞柄)に変更し、作り直した作品です。	385	190
4	戸松 豊	粘菌ジクホコリ	創作表装	粘菌界のスーパースターとかアイドルとか崇められマニアで憧れだそうです。植物的(きのこ2mmほどの大きさ)かつ動物的(アメーバ)な性質を併せもつ不思議な生き物です。	270	107
5	高梨 容子	窓辺の花	二段表装	小出さんが描かれたグラジオラスの絵を頂き、窓から外を眺めた時 目に入って来るような景色を思いながら作りました。	350	150
6	青木 みち子	富嶽三十六景 「神奈川冲浪裏」	袋表装	日本の浮世絵の代表作を複写した物をはがして本紙としました。高く波打つ海の色と同色系の裂地を敢えて使い掛軸に仕立てました。	26	150
7	戸松 豊	擬態モンドリアン	創作表装	モンドリアン(オランダの抽象画家)の代表作「コンポジション」(3原色と四角で構成)からインスパイアされ、掛軸表装との親和性を模索した実験的創作です。	240	115
8	中村 美南子	書、ダヴィンチの言葉	創作表装	本紙が意外と強いので一度静かな感じで仕上げましたが、気に入らずに仕立て直ししました。これならリビングに掛けておいても楽しいかと。	303	135
10	山田 真三子	御多福	創作表装	京都の榮楽屋で見つけた手拭いです。巨大なお多福さんの顔を遠目にご覧ください。 ご覧になった方に「御多幸」あれ！	550	150

10	安達 美津子	コーン大好き、ピピピピ	丸表装	はっきりした青い鳥と黄色のコーンでリビングにも掛ける掛軸を作ってみました。青い鳥が大好きなのはコーンかな。	235	×	148
11	佐々木 正子	随所に主となれ	仏表具	「随所に主となれば 立つところ皆 真なり」臨済宗の教えですが宗教に関係なく、この言葉は、日々主体性を持って色々な事に当たれば、本当の自分の気持ちを失わず生きていけると云う事で、「座右の銘」にする人が多い。リビングに掛けてほしい言葉です。	540	×	150
12	神谷 武彦	四季折々の色紙掛	創作表装	暖簾の素材に使われる麻布(伊乎乃織いおのおり)を選んでみました。裏打ちは糊のつきがわるく、作業過程でも麻生地が固いので手間取りました。ラッピング用の和紙を使って縁にクセントをつけて、明朝風に仕立ててみました。四季折々の色紙に掛け替えてリビングで楽しめます。	400	×	150
13	小出 晶子	如意輪観音	創作表装	大阪勸心寺の観音像を描きましたが、裏打ちの際に右下を破ってしまいました。何とかデザインでごまかそうと、ハスの花と葉のモチーフを刳り貫きで入れてみました。 地は表装裂、模様の部分は着物のハギレです。	280	×	132
14	高梨 容子	「花びん」	二段表装	大村先生より頂いた本紙(新聞を剥がした物)で、先輩方に教えて頂きながら完成させました。	365	×	125
15	袴田 一雄	金閣寺・銀閣寺	創作表装	令和四年十一月、金閣寺・銀閣寺参拝時、金閣寺売店で両方が描かれた小風呂敷を記念に購入し仕立てました。	360	×	205
16	横山 信子	癒仏(いやしぶつ)	三段表装・筋風帯	あたたかみのある菩薩像を描かれる石仏画家の第一人者・本庄基晃さんの作品を以前購入しました。その時に一緒に頂いた書が今回の作品「癒仏」です。 独特のタッチの版画と同じように書も独特の味わいがあります。	175	×	110
17	山田 真三子	「感謝」	創作表装	小さな「感謝」に、花を添えました。 紫色の裂地は、古い紬の着物ですがとてもおしゃれです。 ぜひリビングに飾ってください。	520	×	140
18	森 長次郎	雪中椿	創作表装	久しぶりの作業で時間もないので楽しんでと云う訳にはいかず、仕上げまで気を抜かずに仕上げました。	400	×	250
19	小松 志津子	中原淳一版画「雪」	二段表装・刳り貫き	雪の中ですが淋しく寒くならないような配色にしました。	320	×	170

20	佐々木 正子	扇面「竹」	三段表装 割り貫き	福田平八郎画伯の扇子をはがして仕立てました。 涼しいリビングでのお茶会の集まり等、雰囲気では掛ければ上品な集まりになる と思います。 軸先も黒竹を取り付けました。	370	×	180
21	影山 加代子	大石良雄刀欄銘	丸表装	男物の羽織の裏を本紙として制作しました。 本紙の中で、「忠臣蔵」で有名な 大石内蔵助の刀の柄に刻まれた文字が心に 響きました。	380	×	240
22	大村 淳三	「花かげ」	創作表装	本紙は父大村主計(かずえ)の作詞した童謡「花かげ」を中国人書家 沈強先 生に揮毫してもらったものです。 一文字には竹屋町を使い揉紙(もみがみ)でシンプルに仕立てました。	300	×	120
23	大村 淳三	クリスマス	創作表装	本紙はルミネの新聞広告(クリスマスバージョン)で曲線が多いので、紙表装と しました。突合せの割り貫きにするのにあたり、本紙と周囲の紙綴子との接合に 一手間を要しました。	330	×	180
24	森 長次郎	扇面「富士」	創作表装	なかなか本紙が決まらず、大分前に頂いた作品で決めました。 扇面の型を抜くのは大変でした。	500	×	200
25	小松 志津子	「響」	二段表装・筋 廻し	絵入りの唐便箋に揮毫。ウイスキー「響」とともに飾るつもりです！	230	×	120
26	大村 淳三	踊り	創作表装	本紙はルミネの新聞広告(年末売り出し)でエキゾチックな踊りが面白く思われ たので作りました。会社名が入っていた部分をカットし変型の本紙とし、筋廻し の割り貫きとしましたが、筋を均等の幅にするのに苦心しました。	290	×	170
27	兵藤 和正	サザエさん	創作表装	新聞紙をはがしたものをいただきまして、裏打ちして仕上げました。	300	×	190
29	中村 美南子	書、縦横無尽	創作表装	強い色の本紙なので、裂地を選ぶのに迷いました。	630	×	172
28	安達 美津子	カワイイ！ワンちゃん	丸表装	自分で描いたワンちゃん達が「カワイイネ」と思われる掛軸を作りたいかったです。 まわりのピンクもカワイイを引き立てるためです。	250	×	140
30	袴田 一雄	伊藤若冲「鶴」	丸表装	昨年十月 金閣寺を参拝した際、作品を見たことがあって、かねてより欲しかっ た伊藤若冲の「鶴」を見つけ即購入仕立てました。	530	×	150

31	兵藤 和正	令和	三段表装	新春のよき月 空気は美しく風はやわらかに 梅は美女の鏡の前に装う白粉のごとく白く咲き 蘭は身を飾った香の如きかおりをただよわせている 万葉集の序文より令和としたようで、一緒に表装をしている人よりいただき表装をしてみました。	490	×	130
32	佐々木 正子	唐の古絵	三段表装	小さな古絵を骨董市で見付けて軸にしました。台の布は古絹を玉葱の皮で染めて古さを出し、古絵の型に割り貫きました。少し暗かった様です。	430	×	140
33	神谷 武彦	一行書「一盃念光輝」	茶掛(揉紙仕立)貼風帯	重大な皺があった過去の作品をリメイク。本紙は墨蹟日曆(榊千真工藝)のひとつ「一盃念光輝(いちわんこうきをねんず)」。茶にかかわる一行書。先生の指導を仰ぎながら茶掛に仕立て直しました。一文字は代用竹屋町。柱と中廻しは揉み紙。天地は金の風合いのある揉み紙を使用し、風帯は貼風帯で仕立てました。	480	×	110
34	中村 美南子	仏と猫	丸表装	会員の小出さんの楽しい絵をいただきました。 気ばらずに、明るく仕上げました。	470	×	172
35	青木 みち子	能	三段表装	能の一場面をプリントしたハンカチをみつけ本紙としました。暗く渋い紅紫色の伝統色である二人静に合う裂地を使ってみました。	380	×	170
36	小出 晶子	稜王の面	二段表装	絹地に雅楽の稜王(りょうおう)の面を持つ少女を描きました。 華やかな衣装の色に合わせて、金地の中廻しと花柄の表装裂を天地に用いています。	195	×	165
37	森 長次郎	向日葵	創作表装	本紙が決まらずやっと決めました。本紙の向日葵はずいぶん前の作品です。	500	×	180
38	横山 信子	桜井の別れ	三段表装	楠木正成(まさしげ)と正行(まさつら)の別れの場面。正成は湊川の戦いに赴いて戦死し、今生の別れとなった。本紙が大きくて表装が難しく失敗もしましたがコロナ禍で時間があり、やり直して何とか完成させることができました。	440	×	230
39	神谷 武彦	拓本「鑑真大師」	三段表装 風帯付	知人よりいただいた鑑真大師の拓本を三段表装垂風帯付に仕立てみました。 拓本の鑑真大師は大変珍しい手に入れがたい貴重なものだと思います。	475	×	170

40	袴田 一雄	大相撲番付表(横綱貴)	丸表装	本会の頒布品「大相撲番付表」を入手し、独特の相撲文字の魅力と横綱貴乃花時代が懐かしく仕立てました。四本柱になぞらえ、四色の「房」を手作りし飾り付けました。	450	×	180
41	横山 信子	日々是好日	三段表装・貼風帯	いつも展覧会を見に来て下さる方が「練習用に使って下さい」と持って来て下さった古い掛軸です。裏の和紙を全部剥がし、裂地も全て変えて新しく作り直しました。古い本紙はしわが出て難しかったのですが何とか仕上がりました。	400	×	176
42	影山 加代子	版画十二ヶ月	小屏風	表面には、一九五〇年代に五反田に「割烹 松泉閣」という料理屋が、毎月版画を案内状と一緒にお客様に送られた物が、十二ヶ月分が揃いましたので屏風に仕立てました。 裏面に「牛首紬」の帯見本の裂地を使い、両面が楽しめる作品です。	113	×	400
43	神谷 武彦	丸窓「春の景」	タペストリー	染めの手ぬぐいを気軽にリビングに掛けられるようにタペストリーに仕立てました。 手ぬぐいは四季それぞれ用意されているので季節に合わせてリビングに彩りをそえることも。	410	×	173
44	兵藤 和正	紅型(びんがた)	ミニ衝立(帆立)	掛軸に仕立てるつもりで制作中に、天地が逆になってしまっていることに気がいた。そのため急遽「帆立(ほたて)」に仕立てることにした。裏側も楽しめます。	0	×	0